

第 5 5 回 通 常 総 会 開 催

当協会第 5 5 回通常総会が去る 5 月 15 日、KKR ホテル東京において開催された。河野会長が海外出張中につき、規約に基づき北條副会長が会長の職務を代行することが説明され、あいさつ（後掲）を行った後、議長に就任して審議が行われた結果、上程された各議案はすべて原案通り承認された。

第 1 号議案『令和 4 年度業務報告、収支決算報告及び監査報告』では、(1) 東京港における輸入貨物の取扱数量は 1,866 千トン（検査・重量ベース）、前年度比 3.2% の増加であった。本船貨物では、果実の主力であるバナナが、数量では前年度比 0.7% の増加であったが、カートン数では 0.7% の減少、パイナップルは 9.5% の減少、キーウィフルーツは 4.6% の増加だった。本船貨物としてのかんきつ類の輸入は無かった。本船小麦は 0.6% の減少となった。一方、コンテナ貨物は、3,098 本増加し、73,185 本だった。こく類では、コメが 550 本減少したが、モルトが 1,036 本増加し、全体で 332 本増加した。ダイズが引き続き好調で 3,801 本の大幅増、ラッカセイも 219 本増加し、まめ類全体で 4,188 本増加した。乾牧草は減少した品目が多く、全体で 792 本減少した。嗜好香辛・薬染料は、アーモンドが 206 本減、クルミが 205 本減だったが、タバコ 86 本増、ポップコーン 134 本増、漢方薬 359 本の大幅増で、全体で 55 本増加した。野菜類は前年度比 99.0% で、123 本減少の 12,821 本であった。主力のタマネギも同 99.5% で、25 本減少の 4,914 本、その他も微減の品目が多かった。果実は全体で 751 本の減少となった。かんきつ類は、オレンジ 131 本減、グレープフルーツ 78 本増、レモン 105 本増加。かんきつ類全体では 92 本の増加であった。他にパイナップルが 248 本減、バナナが 135 本減、ブドウ 144 本減、リンゴ 105 本減と多くの品目が減少した。切花・切葉・切枝が 207 本増加した。横浜港からの荷受消毒立会件数が 33 件増加し 443 件であった。輸出用木材こん包材消毒証明件数は 1,522 件で、前年から 803 件減少した。(2) 令和 3 年度第 2 回理事会会の決議に基づき、賦課金・立会料の減額率を 10% にした。本年度の同収入は 15,999 万円（減額の金額 1,744 万円）と前年度比 3.9% 増となり、見込みより 11.2% ほど上回った。(3) 広報活動は、定期的に発行される当協会の「東京植検だより」や植物防疫所、全植検協の機関紙をはじめ、関連のポスターやパンフレットなどを配布したほか、様々な検疫情報、現場情報をホームページ等により、広く関係者に提供した。また、日頃各地から寄せられる問い合わせ、相談などに適切に対応するなど東京

港における植物検疫業務等が円滑、的確、かつ安全に推進されるよう努めた。(4) 関係当局及び諸団体との連絡・協調を図り、特に全植検協については、河野会長が理事・副会長として、また事務局においても各種委員として、同協会の運営に協力した。また、農水省植物防疫課も参加する「植物検疫関係団体連絡会」において検疫現場の状況を報告し、問題点を提起するとともに、検疫情報を直接入手した。さらに、近在協会とも定期的に連絡会を開き、意見・情報交換などに努めた。(5) 令和 5 年 8 月 5 日以降検査分からの「検査証明書添付の厳格化」について、該当する植物の輸入実績のある輸入者に、対応について詳細な説明、資料提供を行い、証明書無添付で輸入手続きが滞ることが無いよう周知に努めた。

第 2 号議案『令和 5 年度事業計画（案）及び収支予算（案）』については、(1) 新年度の事業計画として、円滑な受検業務や広報活動など従来からの基本事業を引き続き推進することと、賦課金等の 10% 減額請求を継続すること、見直される輸入植物検疫制度の随時の改訂に対し、的確に対応すること、各業務を基本に忠実に実行すること、新型コロナウイルス等感染症等の対策を的確に行い、東京港の物流に支障を来さないようにすること(2) 収支予算については賦課金等の減額請求を継続することで、1,450 万円の赤字とする新年度予算を提案し承認された。

北條副会長あいさつ

本日は、会員の皆様方にはお忙しい中を東京植物検疫協会第 5 5 回通常総会にご出席頂きまして有り難うございます。

また、本日はご多忙の中、横浜植物防疫所の森田所長様、東京支所の岡田支所長様にご来賓としてご臨席いただいております。どうもありがとうございます。後ほど森田所長様にはご挨拶をお願いしております。どうぞよろしく願いいたします。

この 1 年間、新型コロナ禍にあるにもかかわらず円滑に業務を遂行することができましたことは、ひとえに関係ご当局のご指導、会員各位のご協力の賜物と感謝申し上げます。役職員一同あらためまして心を引き締めて適切に業務を運営していく所存です。

本日は、(1) 令和 4 年度業務報告、収支決算報告及び監査報告、(2) 令和 5 年度事業計画（案）、収支予算（案）の 2 つの議案について提案しております。

後ほど詳しく説明がありますが、簡潔に内容を紹介しますと、令和 4 年度の当協会の貨物の取り扱い状況は、

前年に比べて若干増加しました。

賦課金・立会料の収入については、コンテナ貨物の実績が当初見込みより多かったこともあって予算額を若干上回り、また支出については新型コロナ禍のもと予定したものが実施できなかったことによる執行残もあって、今年の総会で承認された予算収支より好転した結果となりました。

次に令和5年度事業計画(案)及び予算(案)ですが、現在の事業を引き続き実施するとともに、賦課金・立会料の減額率10%の継続を提案しております。

以上、宜しくご審議のほど、お願い致します。

森田横浜植物防疫所長あいさつ



皆様には日頃から植物検疫行政の円滑な実施と推進にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。今年度も引き続き、迅速かつ適切に植物検疫業務を行って参る所存ですので、どうぞ宜しくお願いいたします。

この機会に植物防疫所の業務状況を説明いたします。

令和4年(2022年)の全国における数量ベースの輸出入貨物検査実績は、輸入では、前年に比べて全体的にほぼ横ばいでしたが、こく類、まめ類(110%)、油料・肥飼料・その他雑品(111%)は、やや増加となっています。

輸出では、前年に比べて切り花(110%)、野菜(210%)、嗜好香辛料・葉染料、その他食品(117%)が増加した一方、栽植用球根(74%)、栽植用種子(89%)、こく類(71%)、木材(88%)は減少、それ以外の栽植用植物、生果実、まめ類、油料・肥飼料・その他雑品等はほぼ横ばいでした(数量ベース、輸出データは携帯・郵便を含む)。

次にいくつかの動きについて紹介します。

近年、中古農業機械の国際的な移動に伴う有害動植物の侵入リスクが明らかになり、改正植物防疫法及び改正植物防疫法施行規則において、中古農業機械が検疫指定物品として規定され、新たに植物検疫の対象となりました。これにより、令和5年4月1日以降に輸入される中古農業機械については、植物防疫所の輸入検査が必要になりました。

令和5年8月5日以降、貨物によって輸入される植物については、輸出国政府が発行する検査証明書の添付義務が厳格化されます。令和2年8月以降、輸出国において検査証明書を発給する体制を整備するための準備期間(3年間)を設けているところですが、準備期間の終了まで残り3か月を切りました。植物防疫所でも本年2月から3月にかけて全国で説明会を開催し、改めて輸入関係者の皆様に対する周知に努めているところです。

つきましては、今一度、取り扱う貨物に検査証明書の添付が必要かをご確認いただき、8月5日以降には、必要な貨物については検査証明書を必ず添付するよう、貴協会関係者への周知にご協力をお願いいたします。

今回の植物検疫措置の見直し(第9次改正)に係る主な改正として、4月1日に施行されたものについては、改正植物防疫法の施行に伴い、輸入検査の方法及び方法並びに検査の結果行う処分の基準等について定めている輸入植物検疫規程について、所要の規定の整備がされました。そして、非検疫有害動植物として、球根に寄生するハナアブ3種(コブアシハイジマハナアブ、スイセンハナアブ、モモトチビハナアブ)が追加され、スイセン球根の温湯浸漬に係る規定が輸入植物検疫規程から削除されました。

また、8月1日に施行されるものとしては、病害虫のリスクに応じた規則別表1の2及び2の2に規定される検疫有害動植物の見直しがあります。規則別表2の2に規定され、輸出国と二国間で合意した作業計画に基づく輸入検疫措置の実施を求めている *Anastrepha* 属ミバエ6種については、規則別表2に規定し直されます。

条件付き輸入解禁植物に関しては、昨年11月にベトナム産りゅうがん生果実、今年2月にモロッコ産かんきつ類生果実及び今年3月にペルー産ぶどう生果実の輸入解禁が行われ、令和5年5月現在、28の国・地域から、のべ113品目の植物が解禁されています。また、新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延を受け、令和2年4月以降、条件付き輸入解禁植物の一部の国・品目を除き、植物防疫官の輸出国への派遣を見合わせていましたが、今年度から全ての品目について植物防疫官の派遣を再開しております。これに伴い、代替措置として実施していた輸入検査抽出数量を増やす等の対応は終了し、約3年ぶりに通常の輸入検査対応に戻ることとなります。皆様におかれましては、代替措置の実施にご理解とご協力をいただきまして感謝申し上げます。

輸出検疫関係では、輸出者からのニーズに迅速に対応するため、国際基準上、病害虫が付着しない程度まで加工されていると判断される小麦粉、赤玉土などの高度加工品は、Web会議システムを利用したリモート検査を実施しています。

東京支所管内では現在約半数の輸出申請者にご利用いただいておりますが、今後より多くの方にご利用いただくように努めてまいります。

さらに、輸出検査予約を、24時間、365日、受け付けられるよう、横浜・川崎地区において、農林水産省共通申請サービス(eMAFF)の中で輸出検査予約システム(P-QUICK)の運用を開始し、4月1日からは東京支所管轄都県の東京都、埼玉県、茨城県でも開始しました。より多くの利用がなされるよう努めてまいります。

国内検疫では、4月1日の改正植物防疫法の施行に伴い、国内に存在することが確認されていない等の有害動植物の一部を対象に、国内への侵入の状況等を調査する事業（侵入調査事業）が法に位置付けられ、本年4月1日から、都道府県及び植物防疫所による調査事業が開始されたところです。

また、昨年（令和4年）に静岡県で発生が確認されたアリモドキゾウムシについては、3月19日から緊急防除を開始したところです。

以上、簡単に動向を説明させていただきましたが、結びに東京植物検疫協会及び会員各社、皆様方の益々のご発展をお祈りするとともに、植物検疫への一層のご理解とご協力をお願いして挨拶といたします。

タイム eye

業務グループ 需要拡大に伴う切花類輸入増について

2022年の切花の輸入が増えている。東京港の全国全産地輸入量は344,372千本と前年比108.7%であった。燃油代の高騰や航空便を中心に運賃の上昇、ウクライナ危機に伴う物流の乱れ、長期化する円安で調達コストが増えたが、全体の輸入量は前年並みで品目で差が出る形となった。

特にカーネーションの輸入増が目立つ。2022年の「母の日」は暖房費の高騰で国産の出回りが不安視され、4～5月を中心に輸入が増えた。5月は3年ぶりの行動制限のない大型連休となり、「母の日」需要が旺盛であったことも影響している。新型コロナウイルスの影響前の19年比では4割弱の増加だった。東京港に輸入されるカーネーションの主な生産地は中国産、次いでベトナム産がほとんどだ。

お盆や彼岸などの物日需要で菊も増加している。国産の菊相場が乱高下する中、比較的安価な輸入品の需要が

固定化しつつある。船便が中心で、輸送コストの上昇幅が小さかったことも挙げられる。同港に輸入される菊は、様々な色が混在するスプレー菊が中心に、ベトナム産、中国産、マレーシア産が大半を占めている。

【東京港輸入量(植防統計)】千本

品目	2019年	2020年	2021年	2022年
カーネーション(中国産)	14,174	24,853	30,816	36,053
カーネーション(ベトナム産)	3,293	2,885	2,581	2,073
キク(中国産)	17,533	14,251	15,833	20,084
キク(ベトナム産)	60,942	69,147	74,094	86,115
キク(マレーシア産)	3,317	5,308	11,524	18,070

日本の花き産業は物日といわれるイベント需要が大きく影響しており、新型コロナウイルスの影響が大きく出た2020年3月の卒業式や送別会シーズンでの需要減少の影響は大きく、その影響のまま2020年4月の緊急事態宣言以降の結婚式や卒業式、送別会など多くのイベント自粛から、年間を通して花の消費機会が大幅に失われ、廃棄されてしまう「フラワーロス」が発生してしまった。

需要回復しつつある現在では新たな物日が若年層に浸透しつつある。花業界が注力する、「いい夫婦の日」、「愛妻の日」などの消費アピールや、農林水産省が行っている「花いっぱいプロジェクト」など、官民一体での需要喚起に向けた継続的な働きかけが更に重要になる。また、日本農業新聞の調査で、消費者が花を購入したい日で最多だったのが「母の日」だ。次いで「誕生日」は全世代で多かった。「盆」や「彼岸」の仏花需要も底堅い。新型コロナウイルスの影響で「日常的な自宅用」などの家庭需要も増加しているとのことだ。

こういった需要のもとカーネーションや菊の輸入増加につながったと考える。2027年には国際園芸博覧会も控えており、輸入にどのような影響を与えるのか、今後の動向に注目したい。

(業務グループ 小林 優修)

会員・役員の変動 (令和5年4月1日～令和5年6月30日)

☆入会会員

4月7日(有)	ライズかわはら [商社]	〒435-0017 浜松市東区薬師町3番地	☎053(422)0623
4月7日	富士フルーツ(株) [商社]	〒141-0031 品川区西五反田3-9-23	☎03(3494)0351
5月29日(株)	ツムラ [商社]	〒107-8521 港区赤坂2-17-11	☎03(6361)7165
6月12日(株)	ヤマダフーズ [商社]	〒019-1301 秋田県仙北郡美郷町野荒町字街道の上279	☎0182(37)2246

☆社名変更

4月1日	イズックス(株) ← 泉(株)
4月1日	ロジスティードエクスプレス(株) ← (株)日立物流バンテックフォワードینگ

☆退会会員

4月11日 日東貿易(株)

☆交代役員

4月1日	理事	都築 貴将	伊藤忠商事株式会社 (前任者: 田邊 秀洋)
4月1日	理事	稲毛 尚之	三菱倉庫株式会社 (前任者: 清水 健朗)
6月1日	理事	福島 和博	兼松株式会社 (前任者: 重田 和康)

東京港輸入植物品目別統計表

(令和5年1～6月累計)

品目	単位	コンテナ詰			在来船積		合計	
		本数	検査数量	不合格数量	検査数量	不合格数量	検査数量	不合格数量
栽植用植物	個	32	1,027,234	584	0	0	1,027,234	584
栽植用球根類	個	51	8,928,195	0	0	0	8,928,195	0
アマリリス	"	7	67,716	0	0	0	67,716	0
チューリップ	"	0	0	0	0	0	0	0
ユリ	"	42	8,437,900	0	0	0	8,437,900	0
栽植用種子	kg	239	2,649,633	8,240	0	0	2,649,633	8,240
草花・樹木	"	2	17,780	0	0	0	17,780	0
野菜	"	110	492,045	0	0	0	492,045	0
普通・特用作物	"	52	874,776	0	0	0	874,776	0
牧草・芝草	"	61	1,136,656	8,240	0	0	1,136,656	8,240
切花、切葉、切枝	個	1,165	159,690,603	6,405,509	0	0	159,690,603	6,405,509
アンズリューム	"	0	107,062	0	0	0	107,062	0
オンシジューム	"	90	3,715,094	132,100	0	0	3,715,094	132,100
キク	"	617	61,249,852	167,050	0	0	61,249,852	167,050
シダ(レザーフアン)	"	77	11,111,000	418,300	0	0	11,111,000	418,300
果実	kg	4,134	69,467,652	5,259,484	151,223,816	92,652,642	220,691,468	97,912,126
オレンジ	"	666	11,389,629	119,459	0	0	11,389,629	119,459
グレープフルーツ	"	289	5,456,083	141,162	0	0	5,456,083	141,162
タンジェロ(ミネオラ)	"	133	2,950,490	0	0	0	2,950,490	0
レモン	"	341	5,839,180	33,508	0	0	5,839,180	33,508
パイナップル	"	647	9,872,959	3,667,626	11,641,082	9,762,314	21,514,041	13,429,940
バナナ	"	548	8,606,399	1,183,337	124,150,055	82,890,328	132,756,454	84,073,665
マンゴウ	"	78	331,341	2,510	0	0	331,341	2,510
キーウイフルーツ	"	341	6,002,751	0	15,429,049	0	21,431,800	0
ブドウ	"	7	100,600	0	0	0	100,600	0
野菜	kg	6,052	120,378,365	497,512	0	0	120,378,365	497,512
カボチャ	"	248	5,965,618	442,025	0	0	5,965,618	442,025
サヤエンドウ(キヌサヤ)	"	4	54,244	0	0	0	54,244	0
パプリカ	"	23	247,242	5,150	0	0	247,242	5,150
メロン(ハミウリ含む)	"	21	385,481	0	0	0	385,481	0
キャベツ	"	23	1,201,190	0	0	0	1,201,190	0
セロリ	"	7	101,265	7,548	0	0	101,265	7,548
ナガネギ	"	819	11,712,220	0	0	0	11,712,220	0
ニンニクの芽	"	9	666,957	0	0	0	666,957	0
ハクサイ	"	0	0	0	0	0	0	0
ブロッコリー	"	58	665,449	9,580	0	0	665,449	9,580
レタス	"	222	2,567,887	0	0	0	2,567,887	0
タマネギ	"	2,140	51,753,610	0	0	0	51,753,610	0
ニンニク	"	323	6,036,946	22,500	0	0	6,036,946	22,500
アスパラガス	"	0	0	0	0	0	0	0
ゴボウ	"	123	3,350,880	0	0	0	3,350,880	0
サトイモ	"	10	201,300	0	0	0	201,300	0
ショウガ	"	170	3,706,283	0	0	0	3,706,283	0
ニンジン	"	539	14,263,440	0	0	0	14,263,440	0
こく類	kg	3,667	75,982,942	0	63,380,282	0	139,363,224	0
オオムギ	"	0	156	0	0	0	156	0
エンバク	"	190	4,142,304	0	0	0	4,142,304	0
コムギ	"	156	3,085,537	0	63,380,282	0	66,465,819	0
コメ	"	345	6,409,993	0	0	0	6,409,993	0
ソバ	"	187	3,697,730	0	0	0	3,697,730	0
トウモロコシ	"	168	3,130,317	0	0	0	3,130,317	0
モルト	"	2,563	54,381,198	0	0	0	54,381,198	0
まめ類	kg	5,576	112,406,056	0	0	0	112,406,056	0
エンドウ	"	20	402,670	0	0	0	402,670	0
ダイズ	"	5,174	104,580,299	0	0	0	104,580,299	0
ラッカセイ	"	239	4,880,175	0	0	0	4,880,175	0
嗜好香辛・薬染料、その他食品	kg	2,812	44,522,716	1,960	0	0	44,522,716	1,960
カカオ	"	7	7,627	960	0	0	7,627	960
コーヒー	"	37	384,214	0	0	0	384,214	0
タバコ	"	467	8,579,415	0	0	0	8,579,415	0
アーモンド	"	737	12,973,862	0	0	0	12,973,862	0
クリ	"	7	123,500	0	0	0	123,500	0
クルミ	"	410	7,116,304	0	0	0	7,116,304	0
ポップコーン	"	288	5,939,977	0	0	0	5,939,977	0
油料、肥料、その他雑品	kg	12,222	275,545,816	0	0	0	275,545,816	0
乾燥牧草(ヘイ)	"	8,924	207,693,586	0	0	0	207,693,586	0
アニマルフィード	"	12	102,547	0	0	0	102,547	0
アルファルファヘイキューブ・ペレット	"	562	13,919,559	0	0	0	13,919,559	0
コーンコブミール	"	7	100,243	0	0	0	100,243	0
飼料用大豆カス、ペレット	"	192	4,468,826	0	0	0	4,468,826	0
ビートパルプペレット	"	191	4,622,248	0	0	0	4,622,248	0
イネワラ	"	92	1,439,668	0	0	0	1,439,668	0
ココピート	"	335	6,557,882	0	0	0	6,557,882	0
ココヤシ園芸資材	"	114	2,464,331	0	0	0	2,464,331	0
ビートモス	"	781	17,445,933	0	0	0	17,445,933	0
ミズゴケ	"	28	55,291	0	0	0	55,291	0
タケ	"	51	624,132	0	0	0	624,132	0
木材	m³	9	159	0	0	0	159	0
** 総合計 **	kg	34,702	700,953,180	5,767,196	214,604,098	92,652,642	915,557,278	98,419,838
	個	1,248	169,646,032	6,406,093	0	0	169,646,032	6,406,093
	m³	9	159	0	0	0	159	0

注) 主要品目のみ掲載。携帯品、郵便物及び他港からの荷受分は含まない。